

【沿革】

1950年代当時、熱硬化性樹脂の主力であったフェノール樹脂の学術討論を行う場として、1951年6月にプラスチック協会と日本化学会関東支部の主催で第1回フェノール樹脂学術討論会が開催されました。1953年に合成樹脂工業協会が設立されてからは、当協会主催の講演討論会である熱硬化性樹脂講演討論会として毎年開催されることが定着し、以来、熱硬化性樹脂の学術研究ならびに技術開発の交流の場として該分野の進歩発展に寄与してきました。

当協会はフェノール樹脂、ユリア樹脂、メラミン樹脂、不飽和ポリエステル樹脂、アルキッド樹脂、ジアリルフタレート樹脂、エポキシ樹脂など主として熱硬化性樹脂を扱う対象にしておりますが、講演討論会では、当協会扱う樹脂ばかりでなく、ウレタン樹脂、シリコン樹脂、ポリイミド樹脂など当時としては新しい硬化性樹脂等に関する研究成果も数多く発表され、文字通り、熱硬化性樹脂の総合的研究発表の場として高く評価されるようになりました。

1980年には、研究発表の成果を文献として広く利用されることを願い、学術季刊誌「熱硬化性樹脂」を発刊致しました。

その後、合成樹脂関連産業の進歩と多様化に対応し、狭義の「熱硬化性樹脂」の概念ばかりでなく、光硬化型樹脂、重合系の架橋性高分子、ゲルなどを含むあらゆる架橋性高分子を「ネットワークポリマー」という広い概念でとらえ、原料、応用加工、分析・物性、環境対応技術など、周辺分野を含めた技術・学術領域が研究し議論する対象となってきました。これらの動きをいち早く察知し、1996年からは、学術季刊誌の名称と講演討論会の冠名を「熱硬化性樹脂」から「ネットワークポリマー」に変更し、これら名称は今日に至っております。

2009年には、ネットワークポリマー分野の一層の発展と浸透を願い、「ネットワークポリマー」誌を季刊誌から毎偶数月発行の隔月誌としました。さらに、2010年より該誌は毎奇数月発行の隔月誌となります。

一方のネットワークポリマー講演討論会も毎年10月中旬に2日間、1会場で開催しておりますが、年々の興隆で、最近数年はポスター発表を含め80件以上の講演・発表、200名以上の技術・研究者の参加を数えるようになり、2010年には記念すべき第60回の開催をむかえることになりました。

これら、学術誌と講演討論会という学術活動はネットワークポリマーの最近の開発動向を把握するとともに、その効果的活用を図る場を提供するものとして自負しております。

なお、講演討論会では合成樹脂工業協会賞授賞式が合わせて举行されるのが慣例になっております。この賞はわが国熱硬化性樹脂の先覚者であり、講演討論会の創設者でもある井本稔、大島敬治、鶴田四郎の三先生により1977年に創設されました。この間、ネットワークポリマーの研究開発を推進し、本業界の発展に貢献された100名以上の方々を顕彰させていただきます。
(2010年1月更新)